

那賀町地域再生塾

事業のポイント

■ 那賀町で活動している「地域再生塾」に更に学習の機会を提供し、より効果的な市民活用となり積極的な展開を促すほか、那賀町と連携した地域活性化に取り組む。

事業の概要

1. 事業の目的

那賀町の地域再生塾は、地域再生塾の塾生(那賀町民)で組織する「地域再生塾丹生谷応援団」と協働し、活動を指導、支援することを通して、那賀町における地域再生人材育成と地域の活性化を図ることを目指している。

2. 事業の取組状況

① 棚田復活へ再挑戦

平成29年度も昨年度に引き続き、耕作放棄された棚田の復活に取り組んだ。地域再生塾丹生谷応援団員と徳島大学生等が那賀町相名の棚田で、田植え等を行った。棚田復活を始めてから、2年続けてイノシシによる獣害に遭い、稲刈りに至らなかったが、案山子を設置するといった対策を施し、3年目にして稲刈り、収穫を行うことができた。



② 御正御影供の新四国八十八ヶ所水崎廻り

平成28年度に地域再生塾に参加する徳島大学生と上那賀中学校生が交流し、リニューアルした「御正御影供の新四国八十八ヶ所水崎廻り」の紹介マップを、弘法大師の命日(旧暦3月21日)に行われた「正御影供」で、参加者に配付した。

また、この活動をきっかけに、上那賀中学校の3年生9名と先生方が、10月26日に大学を訪問し、学内見学と体験講義を受講した。



③ おもてなし英会話塾

地域再生塾では町民を対象に「おもてなし英会話塾」を開催しており、徳島大学の留学生や那賀町に住む外国語指導助手等を招いて、四国霊場第21番札所の太龍寺を英語で案内するイベントを開催した。



事業代表者・連絡先

山中 英生 (地域創生センター・副センター長)
〒771-5406 徳島県那賀郡那賀町延野字王子原31-1
tel / fax: 050-8804-3990
e-mail: ouendan@whk.ne.jp

④ なかはなかなかいいなかAR写真展

地域再生塾丹生谷応援団では、AR(拡張現実)技術を活用し、那賀町の観光名所等を紹介するAR写真展を「那賀町もんでこい祭り」や「道の駅 もみじ川温泉」等で開催した。



⑤ 水崎廻り紹介ビデオの製作

地域再生塾丹生谷応援団では、那賀町水崎の「水崎廻り」を紹介する動画「同行二人」の製作に取り組んだ。作品は、第7回ICT(愛して)とくしま大賞に応募され、奨励賞を受賞した。



3. これまでの取組状況

① ゆず婆ちゃん

那賀町の特産農産物「木頭ゆず」を町のイメージキャラクター化した「ゆず婆ちゃん」や町名を活かしたキャッチフレーズ「なかはなかなかいいなか」を提案、町内の観光施設等の観光案内板等に採用されている。また、ゆず婆ちゃんの着ぐるみは交通安全キャンペーンや町内外の催しで活用されている。

② はんごろし

地域で使われてきた「おはぎ」の呼称を復活させた「はんごろし」は、町外イベントでも早々に売り切れ、町内の和菓子店に町外からの引き合いがあるなど、地域発の名物としての評判が定着している。

上勝学舎

事業のポイント

- 四国で最も人口の少ない町上勝町において、持続可能な地域づくりのため徳島大学と上勝町との包括協定に基づき展開する事業。
- 子育て支援及び新しい学びの場づくりを行う「森の学校プロジェクト」、持続可能な地域づくりに資する「地域再生講座」を展開

事業の概要

1.事業の目的

上勝学舎事業は、平成21年にスタートした。平成29年度は、森林や晩茶等の地域資源を活用した地域再生講座等を継続することに加え、上勝町の森を活用した子育て支援及び新しい学びの場づくりを行う「森の学校プロジェクト」を推進した。

2.事業の取組状況

① 森の学校プロジェクト

(開催日)森の学校WS@上勝町:4月22日(土)、
米国オレゴン州ポートランド視察:6月1日(木)~7(水)、
上勝自然学校「もりのべ」サマーキャンプ@上勝町市宇集落:
8月22日(火)~24日(木)、
もりのべワンデー冬カフェ@上勝町市宇集落:11月19日(日)、
もりのべもうすぐ春カフェ@上勝町市宇集落:2月18日(日)、
もりのべワンデープログラム@上勝町市宇集落:3月18日(日)
平成28年度末に発足した森の学校プロジェクト。4月のWSでは、森の学校及び、その実験的実践「サマーキャンプ」へ向けて、世界で一番の子育て環境について話し合い、自分たちなりのデザインを行った。

6月のポートランド視察では、子育てに理想的と思える環境を自ら作っている母親達や、子ども達が自然の中で遊ぶ学ぶ現場を訪問・交流し、地域の未来に向けて大切なことは何か、食やコミュニティ、自然等、様々な角度から体感した。

8月の上勝自然学校「もりのべ」サマーキャンプでは、ポートランドのパーマカルチャー子ども教育研究所代表マット・ビボー氏を招聘し、地域資源である森を使い、子ども達の感じる力を育てるとともに、親も学び、自然の教育力を体験した。森という場の力によって子ども達に自発的な行動等が生まれた。サマーキャンプには地域内外から子ども延べ18名、保護者延べ11名が参加し、自然に触れた。運営は、住民4名、地域外からの専門家4名、徳島大学生14名、上勝町集落支援員1名、徳島大学職員1名が担当した。その他ニュージーランドからの交換留学生でWWOOFプログラムにより徳島滞在中の若者(21歳)や徳島県西高校の教員1名と生徒4名が見学を兼ねて参加した。

11月のワンデー冬カフェは、上勝自然学校「もりのべ」の未来について、地域の食材を使ったランチを食べながら話し合う場となった。

2月のもうすぐ春カフェには、ポートランドからユリ・バクスターニール氏、メーガン・デントン氏を招聘し、次年度プログラムの開発を見据え、集落の人たちとの共創で、地域に伝わるも

事業代表者・連絡先

吉田 敦也(地域創生センター・センター長)
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880
e-mail: yoshida@tokushima-u.ac.jp

のづくりWS、地域に伝わる食べ物・食材研究WSを行った。

② 地域再生講座

(有)環境とまちづくり代表 澤田俊明氏(徳島大学客員教授)のコーディネートの下、地域資源を活用した地域再生を目指した3つの講座を開催した。

(1) スギ薪のある地域づくり講座

開催日:11月19日(日)

場所:千年の森ふれあい館(上勝町)

薪の宅配サービスが長野県飯田市で誕生、約50名の雇用を創出している。株式会社DLD(長野県伊那市)の木平英一氏を講師に迎え、上勝町でのスギ薪販売の可能性やスギ薪活用の地域づくりを考える講座を開催した。

(2) 地域の持続を学ぶESD講座

開催日:12月14日(木)

場所:千年の森ふれあい館(上勝町)

平成29年度より学習指導要領が改訂され、持続可能な開発のための教育(ESD)の視点での教育がスタートした。このことを受け、徳島大学非常勤講師の中岡雄嶺氏及び鳴門教育大学教員教育国際協力センターの細川威典氏をゲストに迎え、地域資源の有機的・効果的連携を目指したキートークとワークショップを開催した。

(3) 花粉症に効く上勝晩茶づくり講座

開催日:2月20日(火)

場所:上勝町福原ふれあいセンター

日本国内で約三千万人の人が花粉症で困っており、約一千万人の人が通院していると言われている。徳島大学薬学部の研究により、上勝晩茶の花粉アレルギー改善に対する有効性が示されている。徳島大学大学院医歯薬学研究部の福井裕行特任教授を講師に迎え、花粉症に効く上勝晩茶づくりを考える講座を開催した。



もりのべサマーキャンプ



スギ薪講座



ESD講座

徳島大学・美波町地域づくりセンター

事業のポイント

- 人口減少、津波防災などの課題を抱える美波町において、大学、地域行政、住民との連携を推進し、美波町における地域づくりをすすめることで、大学における地域貢献拠点としてのモデル発信を目指す。

事業の概要

1.事業の目的

当センターは、平成25年7月に、徳島大学と美波町との「持続可能なまちづくり」をテーマとした連携協定の活動拠点として、美波町役場由岐支所3階に開設した。徳島大学と美波町が連携し、知的・人的資源の活用と交流を図り、相互に協力して地域の発展と人材の育成に寄与する。

2.事業の取組状況

① 研究員が駐在し研究活動の実施

当センター事務室に研究員が駐在し、美波町由岐湾内地区における事前復興まちづくり活動の参与型分析を行っている。平成29年度は、第20回記念(2017年度)日本環境共生学会学術大会、日本災害復興学会2017年度神戸大会、第64回海岸工学講演会(2017)で研究発表を行った。

② 持続可能なまちづくりに関するシンポジウムの開催

持続可能なまちづくりの啓発や交流を兼ねたミニシンポジウムを開催している。平成29年度は、美波町、美波町自主防災会連合会に協力して、「美波町自主防災会連合会防災講演会」(8月20日、2月20日)や「美波町まちづくり講演会」(3月31日)を開催した。

③ 視察研修及び学生インターンシップの対応

当センター及び美波町の先進的な取組を視察研修に来る国内外の防災・まちづくり関係者(大学研究者、自治体職員、自主防災会等)の対応を行っている。平成29年度は、美波町補助金事業で『美波町津波防災視察研修プログラムの開発』を行い、平成29年度(公社)日本技術士会四国本部防災見学会・講演会・意見交換会(9月23日)、平成29年度JICA研修「コミュニティ防災(A)」(10月13日~14日)、平成29年度日本弁護士連合会第13回災害復興支援に関する全国協議会(2月18日)、美波町2018・着地型モニターツアー(3月3日)等の受入を行った。その他、学生インターンシップの受入も行っており、平成29年度は徳島県内外大学生3名の受入も行った。

④ 美波町の自主防災活動の支援

美波町自主防災会連合会及び由岐湾内3地区自主防災会連合会の事務局支援を行っている。平成29年度は、美波町自主防災会連合会の県外視察研修や美波町避難所開設・運営マニュアルの作成及び訓練等の支援を行った。また、美波町、美波町自主防災会連合会、阿南市、福井町自主防災連絡会の4者間で、県内初となる自治体の枠を超えた「大規模災害発生時における相互協力に関する協定書」締

事業代表者・連絡先

山中 英生(地域創生センター副センター長)
〒779-2103 徳島県海部郡美波町西の地字西地50-1
(美波町役場由岐支所3階)
tel / fax: 0884-70-1274
e-mail: tokushima-minami@tokushima-u.ac.jp

結(6月29日)の支援を行った。

⑤ “止まらない通信網”を活用した命をつなぐ減災推進事業(新規)

総務省平成28年度IoTサービス創出支援事業の一環として、美波町、徳島県南部総合県民局、(株)Skeed、サイファー・テック(株)、(株)あわせ、徳島文理大学、早稲田大学との協働で、日和佐地区を対象に“止まらない通信網”を活用した実証実験事業を行い、地震・津波避難訓練の検証及び津波避難計画を改定した。

⑥ 安全で安心して暮らせる地域づくり実践事業(新規)

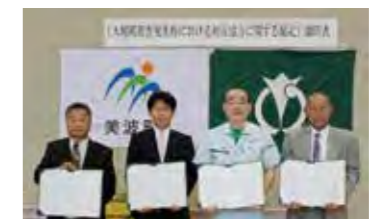
徳島県「四国の右下」版CCRCの加速化事業の一環として、「四国の右下」若者創生協議会(徳島県南部総合県民局・美波町・阿南市・那賀町・牟岐町・海陽町)、一般社団法人アンド・モアとの協働で、日和佐地区移住者を対象に地震・津波防災意識及び避難行動調査を行い、移住者向けの緊急避難場所啓発パンフレットの作成を協力した。

⑦ 小中高等学校での防災教育の支援

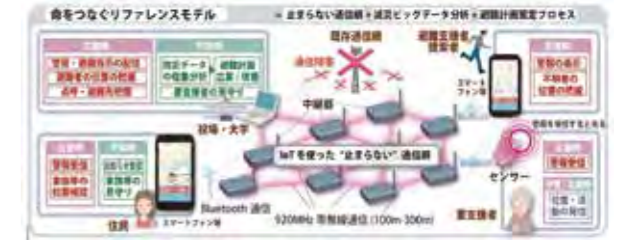
美波町内外の小中高等学校で防災教育の支援を行っている。平成29年度は美波町補助金事業で『美波町防災教育プログラムの開発』を行い、美波町防災教育推進会議研究会及び美波町立由岐中学校防災教育校内研究会等の講師を務めた。また、日和佐小学校5年生及び日和佐中学校3年生を対象に、総合的な学習の時間を活用した年間カリキュラムの作成及び指導を行った。



平成29年度日本弁護士連合会第13回災害復興支援に関する全国協議会事前視察受入



「大規模災害発生時における相互協力に関する協定書」調印式



“止まらない通信網”を活用した命をつなぐ減災推進事業

にしあわ学舎

事業のポイント

■ 県下24市町村との連携協定締結を契機に、県西部(美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町)にサテライトオフィスを設置し、地域を支える人材の育成や課題解決等の事業を行う。

事業の概要

1.事業の目的

徳島大学にしあわ学舎では、県西部2市2町において、地域を支える人材を育成する「人材養成プログラム」と地域課題の解決・改善に向けて検討する「課題解決プログラム」からなる「地方創生支援プロジェクト」を展開している。

2.事業の取組状況

① 徳島の自然を暮らしに取り込むプロジェクト

開催日：かざら工芸ワークショップ(WS)〈学ぶ：11月11日(日)、採取：11月26日(日)、講評会：12月10日(日)、徳大ファーマーズマーケット出展：12月16日(土)〉

かざら×家具WS〈製材所見学：1月24日(水)、家具制作：2月21日(水)〉

にしあわのかざら工芸職人と県内各地で活躍されている様々な領域のデザイナーのコラボレーション企画。徳島の自然を現代の生活に合わせデザインし、暮らしに取り込んでいく方法をみんなで実践しながら学ぶ、連続ハンズオンWS。

株式会社ハレとケデザイン舎の植本修子氏、KESHIHAN 洞のJ子氏、株式会社スマイルグラフィックスの中野道広氏、七節の鴻野祐氏、かざら工芸師の上村キク子氏の協力のもと、かざら採取・下準備工程の調査、基礎的な編み方に基いたプロダクトのデザイン、製作、出展を行った。また出展では、展示の他に来場者がかざらの編み方を体験できるWSを実施し、普段祖谷の自然に触れることの少ない市内の子供達や地域住民に魅力を伝えるきっかけとなった。

また、徳島で活躍するデザイナー・クリエイターの個性を活かしたかざらのものづくりWS第1弾として、神山を中心に活動されている鴻野祐氏によるかざらスツール制作WSを実施した。今後さらに多くのコラボレーションを生み出し、市民参加型のデザイン制作WSを継続的に企画・実施する予定である。

② 継続できる健康づくりプロジェクト

開催日：〈基礎編〉「食と運動で糖尿病予防」：11月17日(金)、〈実践編〉「ウォーキング&ノルディックウォーキングでにしあわを巡る」：11月19日(日)、11月23日(木)、12月2日(土)、12月17日(日)

〈基礎編〉では、徳島大学先端酵素学研究所の黒田暁生准教授から食生活の改善による糖尿病の発病・重症化予防についての講演、徳島大学大学開放実践センターの田中俊夫教授から健康寿命を延ばす効果的なウォーキングの講演・ミニ実践講座を行った。

事業代表者・連絡先

吉田 敦也(地域創生センター・センター長)
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel / fax: 088-656-7651
e-mail: yoshida@tokushima-u.ac.jp

〈実践編〉は、「にしあわ」の豊かな自然・文化を楽しみながら継続した健康づくりを実践できるノルディックウォーキングプログラムとして、地元の方々のご協力によりコース作りを行い、県西部2市2町の魅力あるスポットを参加者と一緒に巡った。

③ 「世界とつながるまちづくり」事業「にしあわ英語旅」阿波川口駅編

開催日：11月25日(土)、2月15日(木)、3月19日(日)

「外国人観光客おもてなしプログラム開発」及び「あなたの街を英語で知ろう」をテーマに、米国オレゴン州ポートランドからの移住者ローリー・スイス氏やポートランド在住のユリ・バクスターニール氏、メーガン・デントン氏らをゲストに迎え、海外から訪れる人々の目線で考えながら、ここに住みたい、繰り返し訪れたい町をみんなでデザインした。今年度の特筆すべき点として、山城町を中心に活動する「やましろ狸な会」と連携し、地域住民による運営にステップアップができた。また、地元ニーズを対話的に引き出すイノベーションデザインセッションを繰り返すフューチャーセンター方式に切り替えたところ、「食」と「故郷デザイン」を考える「地域の場」ができ、ポートランド連携で学ぶ「にしあわ食の研究会」が立ち上がった。これらの成果は、JR阿波川口駅に15分間臨時停車する観光列車「しあわせの郷紀行」号のために地元が臨時開設している「ぼんぼこ商店」やお土産品のデザインとプロトタイピングを刺激し、持続への期待感から、次年度事業計画への地元参加の度合いが大きく高まった。



にしあわ英語旅11/25



かざらプロジェクト



健康プロジェクト基礎編



健康プロジェクト実践編

神山学舎

事業のポイント

■ 若者に魅力ある地域づくり、持続する徳島づくりの未来設計プラットフォームを目指す。
■ フューチャーセンター機能を持った未来の学校として神山町の神山パレー・サテライトオフィス・コンプレックス内に「神山学舎」を設置。

事業の概要

1.事業の目的

若者に魅力ある地域づくり、持続する徳島づくりの未来設計プラットフォームを目指し、フューチャーセンター機能を持った未来の学校として、地域と一体となった事業を実施する。

2.事業の取組状況

神山学舎では、「未来のイノベーター育成」を柱に、米国オレゴン州ポートランドとの連携と神山パレー・サテライトオフィス・コンプレックス内に設置された強みを活かして、地域の住民や事業者、NPO、町役場等との共創事業を展開している。

主な事業は、①「神山学舎リビングラボ事業」、②「神山学舎特別授業」。

① 神山学舎リビングラボ事業

若者に魅力ある地域づくり、持続する徳島づくりの未来設計プラットフォームを目指し、フューチャーセンター機能を持った未来の学校として設置された神山学舎にリビングラボ機能を実装し、徳島から発信する100年時代の地域の未来と人生戦略デザインを土台にした、大学サテライトオフィスの新しい形のデザインを完成し、プロトタイピング、開設/運用の社会実験に取り組んだ。

② 神山学舎特別授業

徳島大学教養教育科目のイノベーション教育科目である「学校をつくろう」や「サービスラーニング」、また総合科学部「課題発見ゼミナール」、総合科学教育部(博士前期課程)「地域創生特論」などの授業を履修した学生や神山町の地域住民を対象とし、米国オレゴン州ポートランドから招聘する講師による講義、地域の課題に即したカリキュラム外の特別授業を実施した。

(主な事業)

■ 地域資源と文化力で創る新しい大学サテライト

サラヤパーク(神山合宿①)

開催日：平成29年8月5日(土)～

平成29年8月6日(日)

場所：神山学舎、神山町の宿 作良家ほか

「未来のイノベーター育成」プロジェクト「宿と食」編では2016年度に、人生100年時代の「ここに住みたい・もう一度来たい徳島の宿」のプロトタイプをデザインした。2017年度は、その建築と運営の社会実験を開始し、その第1弾となる神山合宿を開催した。

■ 地域資源と文化力で創る新しい大学サテライト

事業代表者・連絡先

吉田 敦也(地域創生センター・センター長)
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880
e-mail: yoshida@tokushima-u.ac.jp

サラヤパーク(神山合宿②)

開催日：平成29年12月9日(土)～

平成29年12月10日(日)

場所：神山学舎、神山町の宿 作良家ほか

前述の「未来のイノベーター育成」プロジェクトの第2弾として開催。神山の自然・カルチャーツアーやお遍路体験、クッキングWS等を行った。

■ 故郷デザイン サラヤポップアップランチ

開催日：平成30年2月20日(火)

場所：神山町の宿 作良家

3年をかけて企画/進化した「未来のイノベーター育成」プロジェクトの最終回として、「食×故郷デザイン」をテーマに米国オレゴン州ポートランドからユリ・バクスターニール氏、メーガン・デントン氏をゲストに迎え、世界共通の「居心地」についてWSを行い、デザインに区切りをつけた。

■ 神山学舎×にしあわ学舎事業 徳島の自然を暮らしに

取り込むプロジェクト Part1 カズラ 家具ワークショップ

開催日：平成30年1月24日(水)

平成30年2月21日(水)

場所：神山学舎ほか

徳島大学にしあわ学舎が取り組む、徳島の自然を現代の生活に合わせデザインし、暮らしに取り込んでいく方法を実践しながら学ぶデザインワークショップとのコラボレーション企画として、神山町で家具のデザインを手掛ける鴻野祐氏の協力を得て、祖谷かざら×神山杉スツール作りワークショップを開催した。

3.事業実施による成果と今後の課題

神山学舎は、持続し成長する徳島づくりにおける未来設計プラットフォームとして実質的な結果を順調にもたらしている。そうした成果を社会イノベーションに結びつけ、それに関わった人達が成長し、次世代を担う人材となるよう、イノベーター育成のための「地域を基礎とした教育/学習」(CBL)の単位化やポートランド州立大学との連携プログラムを展開していくためのアクションを継続していく予定である。



神山合宿の様子



家具ワークショップの様子